

V. 早期種苗中間育成試験

前年度に引き続き、沖出し中間育成技術確立のため、海面網生簀を使用して、マダイ、ミナミクロダイの中間育成試験を実施した。

マダイ中間育成試験

1 材料と方法

供試魚は当支場陸上池で生産したものを使用し、10、11、12 mmサイズの3段階の沖出し飼育試験を実施した。生簀設置場所は図-8に示す。

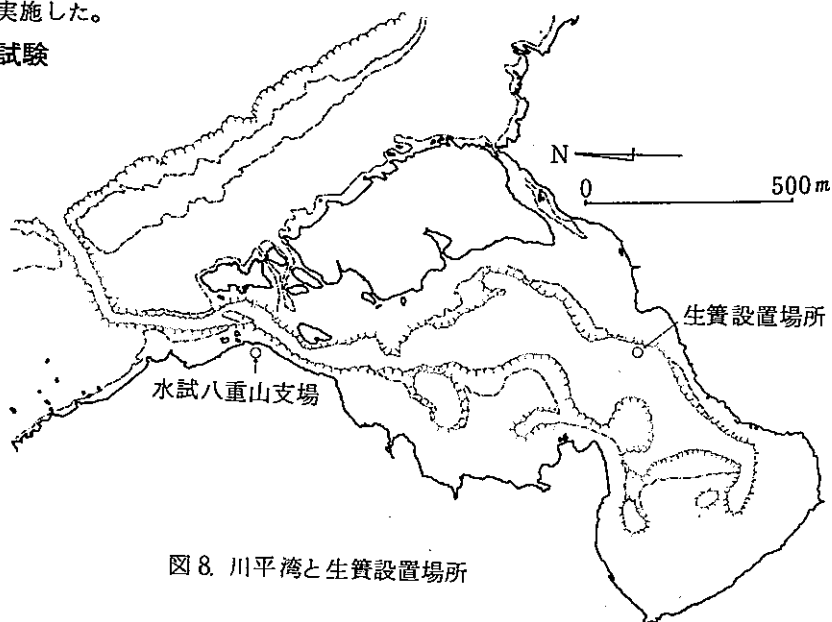


図8. 川平湾と生簀設置場所

川平湾はほぼ南北に細長く、水深は最深部で約16 m、底質は砂及び砂泥である。また量の多少はあるが湾内各所にサンゴが棲息している。水の交換は当支場前のリーフ外に続いた水路によってその大半が行なわれる。

前年度、風波によると思われる斃死が沖出し直後続いたため試験開始前に生簀の北、北西側に防風板を取り付け極力風波を防止した。また、飼育開始後一部であるが南側にも取り付けた。

生簀は3×3 m枠で4月27日～5月2日に沖出しを行ない。当初4試験区で開始し、6月1日の中間測定後2区ずつ統合して2試験区とした。

沖出しは、ポリ容器（容量75ℓ）に海水と稚魚を収容して船で輸送した。取り上げから生簀収容まで約30分を要した。

計数は陸上池から取り上げ時にタモ網ですくいながら行ない、中間測定時の計数も同様にした。

餌料は魚肉ミンチ、マダイ用配合餌料、ウナギ用配合餌料を使用した。投餌は原則として1日3回（9:00, 13:00, 17:00）行ない、ウナギ用配合餌料はそれ以外の餌料投与後、塩ビパイプに付け水面下につり下げて与えた。2試験区となってからはマダイ用配合餌料だけの投与とし、6月16日よりフィードオイルを7%添加した。また沖出し前日より沖出し後1週間まで夜間懐中電灯を点灯し天然プランクトンの収集に努めた。

生簀網は160 径モジ網（3×3×2.5 m 以下サイズ同じ）より開始し、90 径モジ網、1.5 m 目 T.R 網を魚の成長に応じて使用した。網は適宜潜水して掃除した。6月1日の中間測定後、網外生物による食害が認められたので、5×5×5 m、1 cm 目網を外側に設置し2重網とした。